

■岡田良平 教育行政家。〈大正デモクラシー〉期前後、長く文部行政を主導し、多くの制度改革を実現した。

おかだりょうへい

禁門の変・1864＝ 遠江国佐野郡倉真村で、報徳運動家岡田良一郎の長男に生まれる。一木喜徳郎は実弟。

明治維新・1868＝ 4歳：

明治6年政変 1873＝ 9歳：

三つの内乱・1876＝12歳：小学校卒業後、父の経営する私立翼北学舎に入り漢学・英学を学ぶ。

沖縄県編入・1879＝15歳：上京、東京府立第一中学を経て、

明治14年政変1881＝17歳：

新体詩抄・1882＝18歳：東京大学予備門に入学。

岩倉具視没・1883＝19歳：東京大学文学部入学、哲学を専攻、

在学中特待生にもなった。

国民之友始・1887＝23歳：帝国大学卒業。

大学院を経て、

帝国憲法発布1889＝25歳：第一高等中学校教諭、

帝国議会始・1890＝26歳：教授となる。

大津事件・1891＝27歳：

郡司千島探検1893＝29歳：文部省に入り視学官、

日清戦争始・1894＝30歳：

山口高等中学校(のち山口高等学校)校長に赴任、学生騒動の解決に手腕を振るう。

白馬会・1896＝32歳：

以後、参事官、

書記官・視学官などを歴任、

Bushidou・1899＝35歳：\*樺山資紀文相のもとで参与官に抜擢され、私立学校令・教育基金令・小学校令などの制・改定に関与。実

業学務局の復活にも努め、

ビアノ国産化・1900＝36歳：その実現とともに局長に就任、フランスでの国際会議出席のついでに実業教育を調査し、帰朝後「実業学

校増設計画」を立案。

田中正造直訴1901＝37歳：菊池大麓文相のもとで総務長官となり、専門学校令制定、教科書国定化などに関与、文部省廃止の動きに

反対し阻止に貢献したが、

日比谷公園・1903＝39歳：官制改革で退官、

日露戦争始・1904＝40歳：以降、貴族院議員。

日露戦争終・1905＝41歳：

韓国反日暴動1907＝43歳：京都帝国大学総長、

アヲホ創刊・1908＝44歳：\*小松原英太郎文相のもとで文部次官、文教行政に業績を示し、通俗教育調査委員会の委員長なども兼任。

伊藤博文暗殺1909＝45歳：

明治天皇没・1912＝48歳：

21ヶ条要求・1915＝51歳：父が死去し、大日本報徳社社長を継ぐ。

民本主義・1916＝52歳：\*寺内内閣の文相に就任、

ロシア革命・1917＝53歳：小松原らの助言を得て、わが国最初の内閣直属の教育諮問機関である臨時教育会議の設置に成功、その答

申に従って永年の懸案であった高等教育制度の改革を断行、また義務教育費国庫負担の道を開いた。

本格政党内閣1918＝54歳：

原敬首相暗殺1921＝57歳：

護憲三派圧勝1924＝60歳：加藤内閣の文相に就任、宇垣陸相の軍縮政策に共鳴し、多くの反対を抑えて、

治安維持法・1925＝61歳：現役将校の配属、青年訓練所の設置、幼稚園令制定などを実施。第1次若槻内閣の文相にも留任して、

金融恐慌・1927＝63歳：\*退任。

世界恐慌・1929＝65歳：枢密顧問官、

海軍軍縮条約1930＝66歳：以前から関係の深かった産業組合の中央会頭に就任、折からの農村危機乗り切りに苦慮する。

満州事変・1931＝67歳：

国際連盟脱退1933＝69歳：文政審議会副総裁に任命されたが、

帝人疑獄事件1934＝70歳：没した。